町並みかわら版

第九十八号
柳井市白壁の町並みを守る会
事務局（皿田治）
TEL 090－1012－4204

傘の花のなかでみえたもの

柳井市白壁の町並みを守る会
会長　木阪　泰之

2024年3月17日、第21回柳井しらかべ花香遊が開催されました。当会はこのイベントをサポートをする立場ですが、自身が主催者である観光協会のお世話役も務めさせて頂いていることもありますのでそこにも少し触れたいと思います。花香遊は、柳井市観光協会が主催者に移管されておかげさまで10年が経ちました。この間 晴天に恵まれておりましたが今回は終日雨模様となりました。今迄見えなかったものがはっきりと目に映ったのは私だけではないでしょう。来場者は昨年の三分の一程度の凡そ千名。「お祭りは晴れたら8割成功」と言われますが、近年は〝晴れの日〟という盾に守られていた・・・救われていたのかもしれません。

また新型コロナの影響もあり、新しい試みは出来ない（やらない）理由が随所に沁み込んでしまっていたのかもしれません。それでも当日、雨にもかかわらず多くの皆様がこの日を楽しみにされ、和装やイベントを楽しんでいらっしゃる姿、笑顔を見て、従来の世界観を踏襲しつつも今後の花香遊の在り方を考え行動していくことの使命感、責任感を強く感じた次第です。

傘の花が一杯の花香遊会場

コロナ禍もほぼ完全に収束し、第22回に向けてRe・スタートするタイミングだと思っています。柳井自遊倶楽部さんが立ち上げた想いや世界観を再確認し、これらに共感いただける飲食関連の皆様、市外・県外の出店希望の皆様を募ることも試みてみたいと考えています。

灯のアートイベント会場

柳井まつりや金魚ちょうちん祭りとは全く異なる世界観を持つこの〝花香遊〟、柳井の白壁の町並みの空間でしか体感できない唯一無二のものにしたいものです。結びになりますが、当日、雨中の花の苗配布、町並み資料館内での新しい試みにご賛同ご協力いただきました会員、地域住民の皆様方に心より感謝申し上げます。各方面からのご意見等お待ちしております。

「花香遊」と柳井中学校美術作品展

柳井中学校美術部顧問　井川　実祐

令和六年三月十七日（日）、第二十一回「やない白壁花香遊」に併せて、今年もやない西蔵にて柳井中学校美術作品展を開催いたしました。

作品展では、美術科の授業で子どもたちが懸命に制作した作品や、美術部員渾身の人物画や静物画などの作品が展示されました。

また、「花香遊」限定の目玉企画として、美術部員が脚本、原画、キャラクターデザイン、声優、編集の全てを手掛けた電子紙芝居の上映が行われました。昨年の柳井中学校文化祭のために制作された作品で、部員全員で半年間の準備を経て完成させたものです。

この度の上映にあたっては、登場キャラクターのしおりを来場者にプレゼントするクイズ企画も行いました。皆様には大変ご好評で、子どもたちもとても喜んでいました。

やない西蔵での展示と上映会

当日は生憎の雨でしたが、傘を手に懸命に呼び込みのチラシを配り、作品展に地域の方をお招きする美術部生徒の姿からは、地域社会に貢献する思いと郷土への温かい愛を感じられました。

花香遊会場で展示会に案内する生徒たち

最初は来場者に声をかけることに惑っていた子どもたちも、徐々に慣れてきて、積極的にご案内できるようになり、達成感あふれる充実した表情がうかがえました。

柳井中学校美術部は、八朔船流しで使用する頼母船の修繕、代田八幡宮への巨大絵馬奉納など、地域との関わりを大切にした活動に取り組んでいます。「花香遊」での作品展もその一環であり、地域の方々と直接交流することで、子どもたちは地元への愛着を深め、郷土愛を育む貴重な経験をすることができました。

こうしたかけがえのない経験を積み重ねていくことで、これからの地域社会を担う子どもたちの健やかな成長を期待したいと思います。

春雨の中の十三参り

花香遊部会　中重　亜紀子

第二十一回花香遊は近年珍しく、春雨の中の開催となりました。そんな中、雨ニモマケズ風ニモマケズとお着物を召されたお客様にたくさんご来場いただき、お祭りは華やかに彩られました。

数えで十三歳になる男女のお子様の成長を歓び、虚空蔵菩薩さまから「知恵」と「福徳」を授かるためにお参りするお祝いの儀式が「十三参り」。今年は三名のお子様に参加いただきました。着物や制服で正装し、少し緊張した面持ちでご家族と湘江庵の寺内へ。ボランティアスタッフの中学生たちにエスコートされた彼女たちの顔は少しずつ緊張が解れて笑顔がこぼれていました。

上品で奥ゆかしい香りが漂う本堂に入り、塗香で手を清め、色紙に好きな漢字を一文字書いて奉納します。その様子見守るお母さまの眼差しは優しく温かいものでした。

仄かな香りと緊張感に包まれる中、住職の柔らかな読経が心地よく響きます。京都では今も続く伝統行事「十三参り」。虚空蔵菩薩が祀られているご縁で、ここ柳井の湘江庵でも行われることに感謝しながら、もっと多くの方に知っていただきたいなと思います。

この日参加いただいたお子様のお母さまから「バタバタと忙しく過ぎる日々の中で、忘れがちな大事なことに思いを巡らせる心洗われる時間でした。」と感想をいただきました。

この日、参加者には記念に住職から「お守り」と主催者から「十三智菓」が渡されました。

今年の大河ドラマ「光る君へ」の舞台は平安時代。その古の時代から続いているという「十三参り」は我が子の健やかな成長に感謝し、その将来の幸せを願う親心が表れる行事です。いつの時代も変わらない子を思う親の気持ち。「目標を持ち、諦めずに続けることで花開くことがあります」との住職の講話を聞きながら、お世話している私自身の我が娘へのエールをいただいているように思えて、皆さんの将来が幸せであるようにと願わずにいられませんでした。

この素敵な「十三参り」がこれからも続きますようにと願いながら、来年もお世話をしたいと思います。子育て中の皆さんのご参加を心よりお待ちしています。

第二十四回　商都柳井おひなさま巡り開催

毎度のことだが商工会議所からの助っ人一名を除き我らシルバー軍団七名は口先ばかり達者で身体の方はまるで云うことをきかない。それでも年を取った杵柄と云うかいたずらに経験だけは積んだと云うべきか助っ人に対しておひな様の持ち物が違うなど文句だけは付けるのだった。あなた新人に対して嫌われる上司の典型的タイプですぞ。ともあれ結果として立派に六基の七段飾りが町並み資料館に完成したのであった。

話しはいきなりスタンプラリーの日に飛んで・・・開始早々トラブルが発覚。スタンプを集めているお客さんから「この番号のおひな様が見つからんのじゃが？」同じクレームが続く。早速現場に急行して確かめると店の戸が閉まっていた。すぐさまその番号を欠番扱いしその後は事なきを得た。後日そのお店の経営者ご親族にご不幸があり店を休まざるを得なかった事情が判明。祭りにはハプニングは付き物ですね。

スタンプラリーの様子

商都柳井の歴史　その廿五

松　島　幸　夫

柳井津商人の心（七）

公共に尽くす英断

豪商たちは、一朝一夕に大店を構えることができたのではありません。言葉に言い尽くせないほどの苦労を重ねた結果として、財力と信用を手に入れたのです。しかし時に、その財力を惜しげもなく公共のために提供しました。確かな公共心を持っていたのです。

金儲けだけに商売を展開した店は、客が来なくなって潰れてしまいました。お客のため、また社会のために尽くしてこそ、豪商になれたのです。我欲を捨てて、奉仕する心があったからこそ成功者になれたのです。

今回は柳井津の豪商が、自らの蓄財を惜しげもなく投げ出して、社会のために貢献した事例を見てみましょう。

1　海運に恵まれた柳井

柳井津は古来、海上交通の要所でした。津とは港町を意味しますから、「柳井津」とは「柳井港」であったことを表す地名です。しかし現在の柳井港は柳井津から約4㎞も東に移動してしまいました。

2　柳井港の変遷

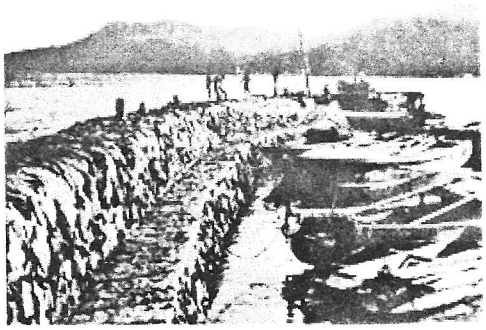
柳井津はもともと海に面する交易の町でしたが、米の増産を図るために柳井湾に堤を巡らせて、古開作の干拓地を造りました。その結果、柳井津の眼前は海でなく、柳井川になったのです。大型回船が柳井津町の岸壁に接岸できなくなったために、柳井川の河口にあたる北浜の松ヶ崎に新たな港を築き、「浮湊」または「沖湊」と名付けました。大型船が柳井津に接岸できなくなったので、商人たちは川船（底平船）で荷を運び、浮湊で大型回船に乗せ換えて遠方と交易しました。

川砂の沖積がさらに進むと浮湊にも接岸が難しくなり、浮港の先に土手を延ばして、「築港」を造りました。積み込みヤードは狭かったのですが、鉄道やトラック輸送が主流になる前は、重要な港として活況を呈しました。

3　「ぬしや波止場」の建造

さらに近代化が進行すると、大型汽船が容易に接岸できる港が必要になりました。行政には新港を設置する資金がありませんでした。商人たちは柳井の発展のために新たな港を造りたいと思いながら、悶々とする月日が続きました。ついに明治十七年、豪商である近藤唯治が「我が店の私財を注ぎ込んで新港を創ろう」と決断します。裸島が波除けの役割を果たす現在の柳井港の位置に、新港の設置を決めました。岸壁の整備を行い、そこから沖に向かって65ｍの突堤を張り出させて汽船と陸をつなぎました。当時の金で500円を要しました。近藤唯治が経営する塗師屋商店は藍玉の販売をしていました。当時の柳井は「柳井縞」をブランド品とする繊維産業が盛んでしたから、店の経営は順調だったと思われます。また外国の高級時計を輸入したり、甘露醤油などを輸出する商社的な経営もしていました。それにしても港造成には多額な出費ですから、大英断でした。柳井を思う近藤唯治の心意気に感動します。豪胆さに驚かされます。

公共心に燃える決断により、大阪汽船や尼崎汽船などが寄港する瀬戸内海航路の要所になりました。大陸との通商にも弾みがつきました。現在では松山を結ぶフェリーがひっきりなしに発着しています。



ぬしや波止場（現柳井港）

柳井の地図絵図

岸田稔明

第四十一回　玖珂郡柳井町新庄村余田村連合用水改良事業地域図（山口県作成）

前回は、大正末期から昭和初期にかけて申請された柳井の上水道敷設に対し、水利権のある地区から強い反対の声が上がり、困難を極めたことを取り上げた。

水利権のある地区が反対した主な理由は、上水道敷設により農業用水が確保できなくなることであった。当時、柳井町西部と新庄村の大部分は柳井川の水により灌漑していた。また、余田村や新庄村北部の一部は小さな溜池や渓流を水源としていたが、いずれも水量は少なく、度々干害を被っていた。

この事態の打開のため、山口県は昭和七（一九三二）年頃、山口県が黒杭と余田畑にまたがる地に県営の溜池を造ることを提案した。正式名称は「玖珂郡柳井町新庄村余田村連合用水改良事業」である。柳井町、新庄村、余田村の一町二村の柳井川と土穂石川に挟まれた農耕地五百三十六町歩の用水改良事業である。事業の目的は安定的な水源の確保で、県の指導のもと、新庄村役場に事務所を置き、昭和八（一九三三）年度に工事着工の準備が整えられた。

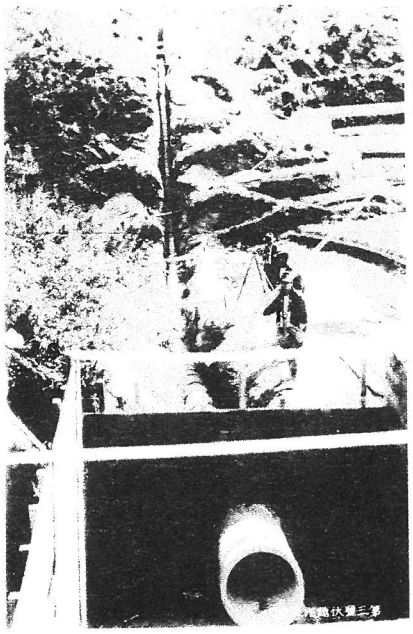
溜池の新設工事は昭和九（一九三四）年に着手し、昭和十二（一九三七）年に完成した。更に同年、溜池から新庄水越（現：やまぐちフラワーランドの北）まで延長千二百七十六間（約二千三百メートル）の導水路及び分水装置の工事に着手し、昭和十四（一九三九）年に完成した。

導水路のうち約三分の一を占める隧道工は、六か所、全長約七百五十メートル、高さ約百五十センチメートル、幅約百センチメートルのトンネル工事である。

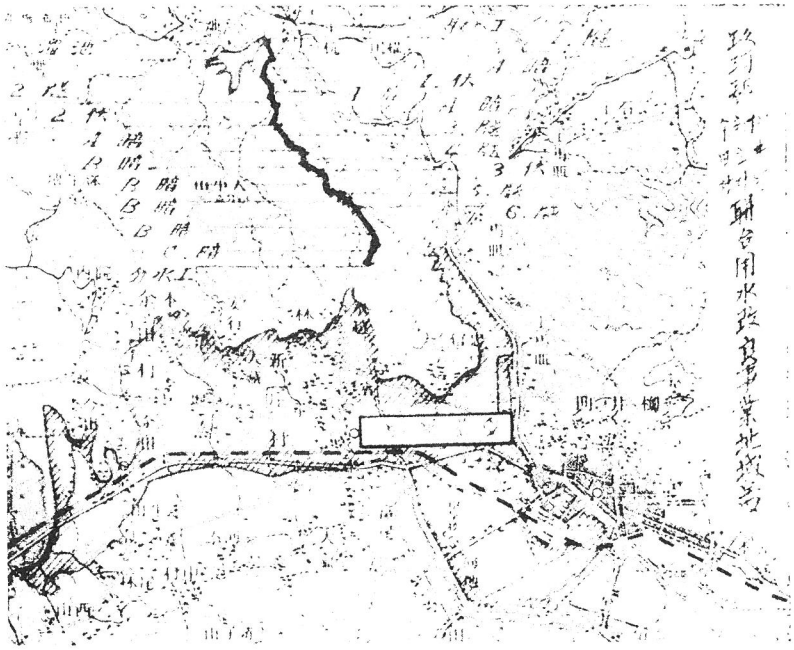
分水装置は、柳井町方面一、新庄方面二、余田方面一の四分割とし、比例分水装置にて分水することとなった。すなわち、内径百三十ミリメートルの穴を二十九個つくり、うち柳井方面九個、新庄方面九個（長溝方面）と五個（昭和北水路）、余田方面六個の割合で分水することとなった。なお、現在では新庄の長溝方面のみが使われている。

総事業費は十三万八千円、うち溜池事業は八万円、導水路幹線水路は五万八千円であった。収入の内訳は、国庫補助金五万一千円、県債四万円、県費負担金一万六百円、地元寄附金三万六千四百円であった。

この事業により、農業用水が安定的に確保できるようになり、上水道敷設もようやく進捗することとなった。



【第三号伏越施行状況写真（玖珂郡柳井町新庄村余田村連合用水改良事業竣功記念絵葉書）（山口県作成）】



【玖珂郡柳井町新庄村余田村連合用水改良事業地域図（山口県作成）※部分】

資料館便り

『第十一回松島詩子の名曲を歌う会』

副会長　山近　絹代

松島詩子さんの代表曲「マロニエの木蔭」にちなんでマロニエの花の咲く頃に「歌う会」を開催してきましたが、今回は三月十七日の花香遊の日に、例年通り歌手の谷本耕治さんをお迎えして開かれました。

生憎の雨でイベントの人出は例年の三分の一でした。今まで歌う会には立ち見が出るほど多くのお客様が来られていましたが、今年はお客様が少なく又いつも来られていたお客様の顔が見えず、少し寂しく思いましたが、例年と違う客層にPRできたのではないかと感じました。

第一回目からボランティアでピアノ伴奏してくださっていた角田啓子さんが、昨年天国に旅立たれてしまわれ、その訃報を聞いて驚きと悲しみを感じると同時に翌年の「歌う会」の伴奏をどうしたらといいのかと心配しました。でも角田さんはちゃんと考えてくださっていて、宮本陽子さんとゆうさん母娘に託していてくださいました。感謝、感謝です。

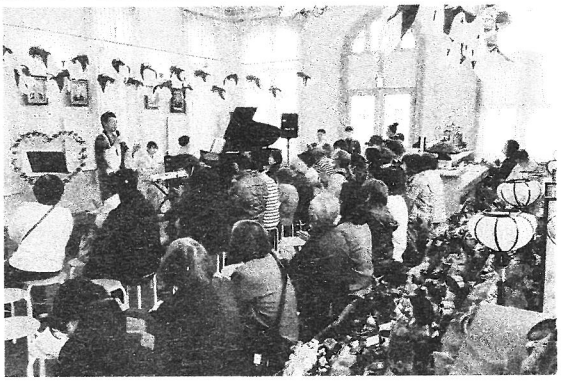
歌手の谷本さんの発案で二部の終わりを角田さんを偲ぶコーナーとして、彼女が大好きだった曲「いのちの歌」を宮本さん母娘の伴奏で、私も歌詞の一節を涙ぐみながら紹介させてもらい思いを皆さんと共有しました。

初めてのお客様には唐突に感じられたかもしれませんが、角田さんをご存じの方には深く沁みたのではないでしょうか。

毎年、松島詩子さんのご子息の内海輝夫様から送っていただいているお花をお持ち帰りいただいていますが、今年は徳山花市場様からのお花もあり、来場者の皆様は大喜びでした。

谷本さんが「今度は自分のコーナーもCDではなく全部お二人に伴奏してもらうようにしよう」と言われていたので、次回どうなるか、とても楽しみです。

皆さんの協力のおかげで今年も開催できました事、心より感謝申し上げます。



松島詩子の名曲を歌う会会場の様子

【編集後記】

★日本各地には力と力でぶつかり合う勇壮な祭りが数々あるが、ここ柳井には女性が立ち上げた花香遊と云うユニークな祭りがある。今年で21回目だそうだが随所に女性ならではの豊かな感性、優しさに溢れた世界観があるのは木阪会長の記事にある通りだ。おひなさま巡りのスタンプラリー受付に詰めていたため動けなかったが、一度は着物を着て投扇興、お香遊び、お茶席、かるた大会など楽しんでみたいものだ。男が企画した祭りではこうはいかないと思う。

★年初の能登半島に引き続き台湾発の地震がまた起こった。白壁通りには江戸時代に遡る伝統的建造物が数多く残っており大地震に襲われたら甚大な被害が出るのではないかと心配になる。何か対策が必要ではないか。

（事務局　皿田）

令和5年度第4四半期
柳井市町並み資料館入館者数

	令和6年/1月～3月	令和6年3月現在累計
町並み資料館	4,293	325,109
	前年同期比　126%	
松島詩子記念館	1,049	114,947
	前年同期比　154%	